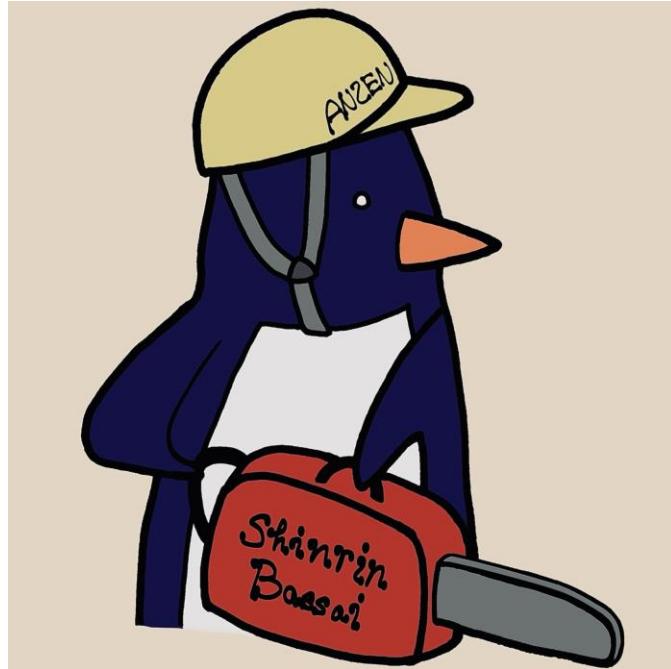


應用音樂構築論Ⅰ

Impression! 作曲(音並べ)講座

まずは自己紹介 グンモー^^



- **HN：更地**
- 2回生、2年生、22歳（←深刻なバグ）
- 環境設計コース所属（←絶滅危惧種）
- 主な作品
 - ・『バンドマンになりたい！』(2023)
 - ・『さよなら宇宙旅行』(QMF2025)
 - ・"Sonata No.1 for Solo Violin"
(verbier festivel 2024にて初演)
- 主なジャンル
 - ・不明☆（ジャンルは意識しないマンです）

本講義の概要^^

- ・音楽の「構造」に着目して、どのように音楽を形作るのか？
　　という点について（私の私論を）語ります。
- ・本講義には更地の主義・主張・思想などが多く含まれます。
　　聴講中、身体に異変を感じた場合は直ちに聴講を止め、
　　医療機関、教授、准教授、講師、助教、TA、生協の人、
　　友達、友達以上恋人未満の人、内なる自分、外なる自分
　　などに相談し、適切な処置をとるよ
　　うにお願いします。

あたし、成績ってだあ～いきらい！

- ・成績評価について
 - (1)試験(20%)+出席(80%)
 - (2)イチゴ(30%) + バニラ(30%) + チョコ(40%)
 - (3)未出席(100%)
 - (4)非未出席(100%)
 - (5)パンダカー(20%)+ゴーカート(20%)+観覧車(60%)
 - (6)さよーならまたいつか！(100%)
 - (7)不眠症根暗限界社畜男(50%)×儻げヒモギャル男(50%)
 - (8)ツンデレケモミミメイド男子(100%)

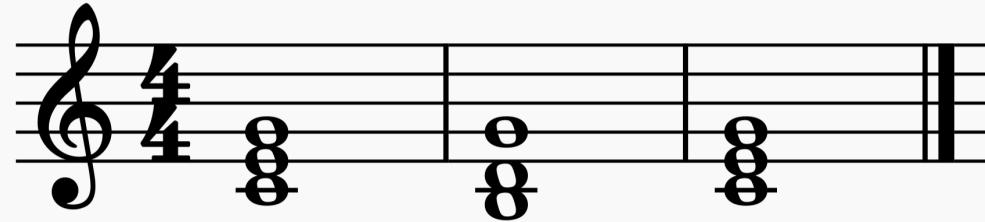
(1)~(8)のうち大きいもので評価します。

まずは……^^

- ・今から示す音を聴いてください。

まずは……^^

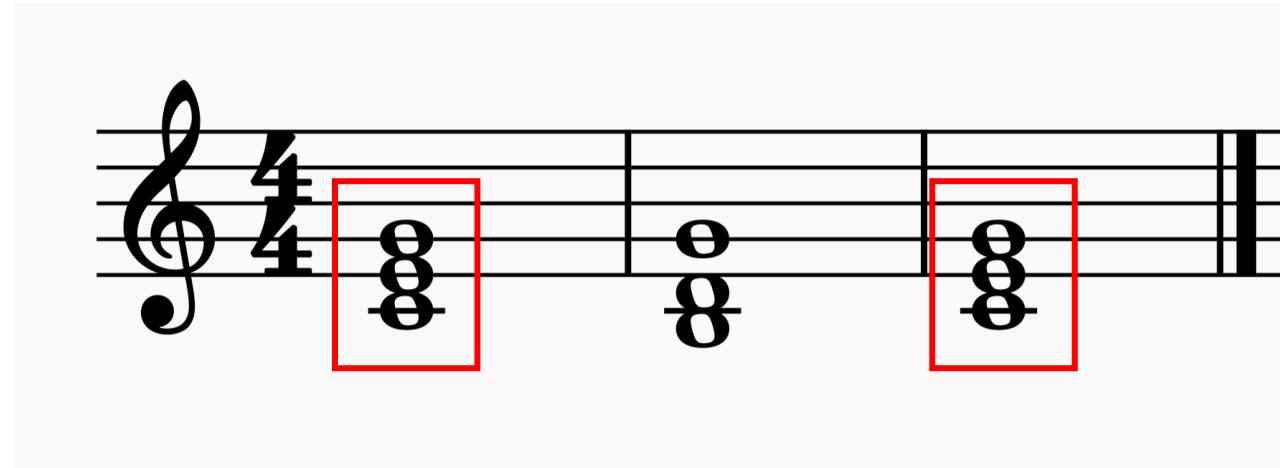
今聞いていただいた音は、楽譜に示すと以下のようになります。



この和声進行は、**カデンツ第1型**と呼ばれるもので、クラシック音楽においては基礎中の基礎となる進行です。

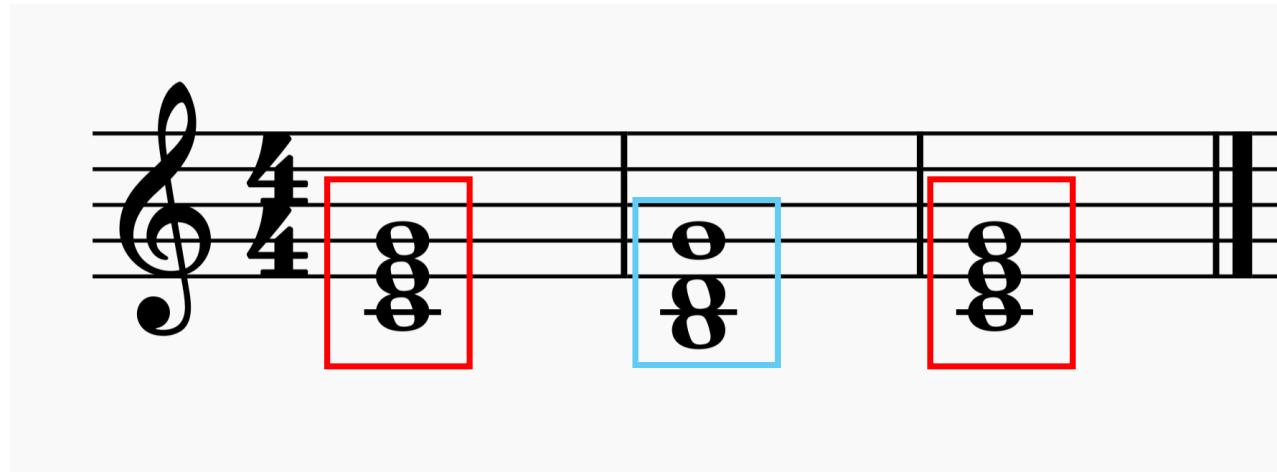
まずは……^^

- 今の進行における各和音の役割を見てみましょう。



ひとつ目と3つ目の和音は「トニック」と呼ばれ、
その調性システムの中で最も安定した和音とされています。

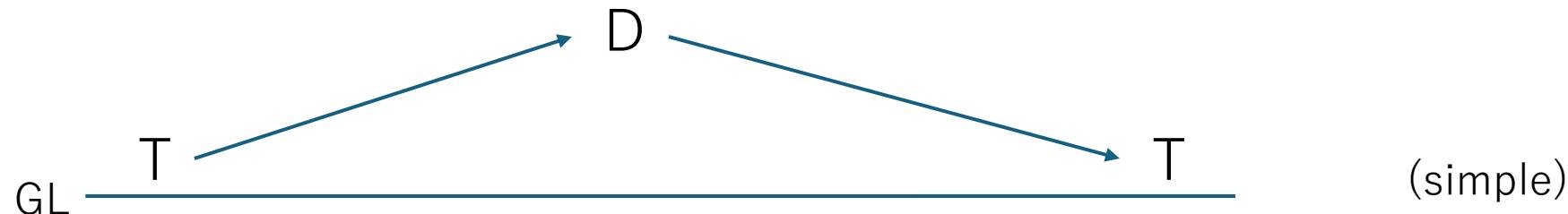
まずは……^^



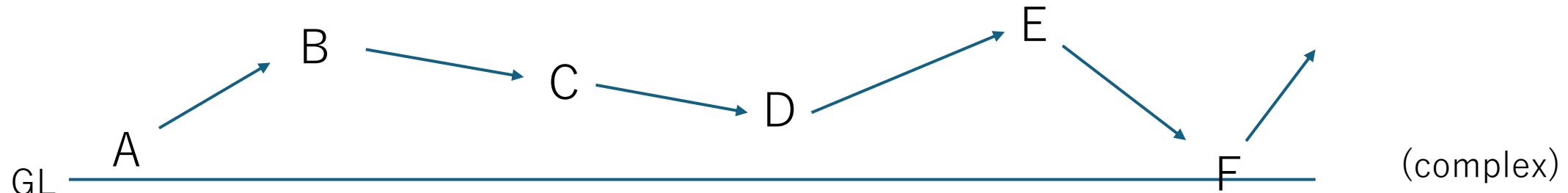
- ・ 2つ目の和音は、「ドミナント」と呼ばれるもので、最も緊張状態にある和音とされています。
(ただしこの譜例では転回形)
- ・ つまり、カデンツ第1型は、「安定（提示）」→「緊張」→「安定（緩和）」という構造をとっているといえます。

音楽構造の基礎とは？

- ・ このように、音楽の基礎部分は「緊張と緩和」
というもので成り立っていることがわかります。



- ・ 古典的な音楽では「緊張と緩和」が非常にシンプルな形で
用いられていますが、時代が進むにつれてそれが複雑化していきます。



音楽構造の基礎とは？

- ・今示したのは和声進行にかかわる部分ですが、
そういったミクロの面だけでなく、
マクロな面、つまり、「音楽全体の構造（形式）」
についても、同様のことが言えます。
- ・例えば、先ほどのカデンツ第1型の図と、
音楽形式のうち最もポピュラーである、三部形式の構造を
比較してみると良いでしょう。
(三部形式:A→B→Aという音楽構造を持つ形式。)
- ・ミクロでもマクロでも、「緊張と緩和」という点が重要になります。

基礎的な構造の例

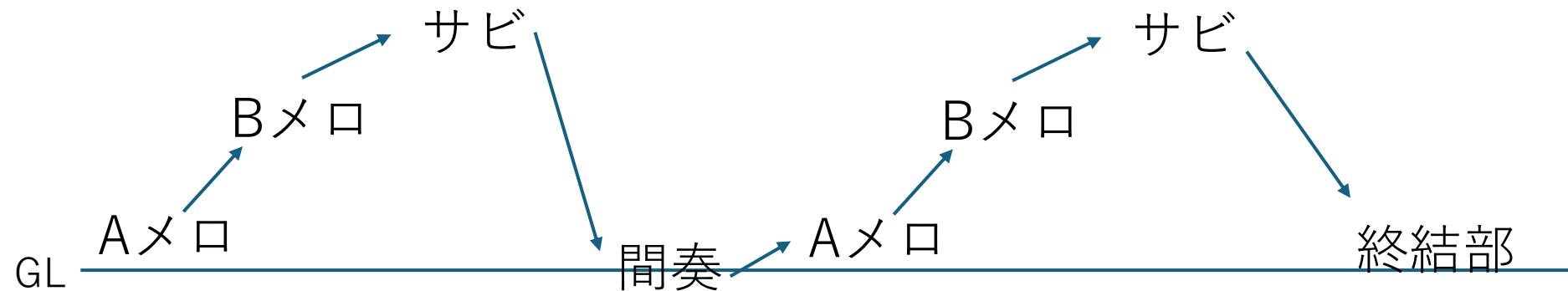
- 今までの話を踏まえて、ポップスでよく用いられる構造について検討してみましょう。

以下に、日本の歌謡曲で良く用いられる「リフレイン形式」の一般的な構造を示します。

Aメロ - Bメロ - サビ - 間奏 - Aメロ - Bメロ - サビ - サビ - 終結部

基礎的な構造の例

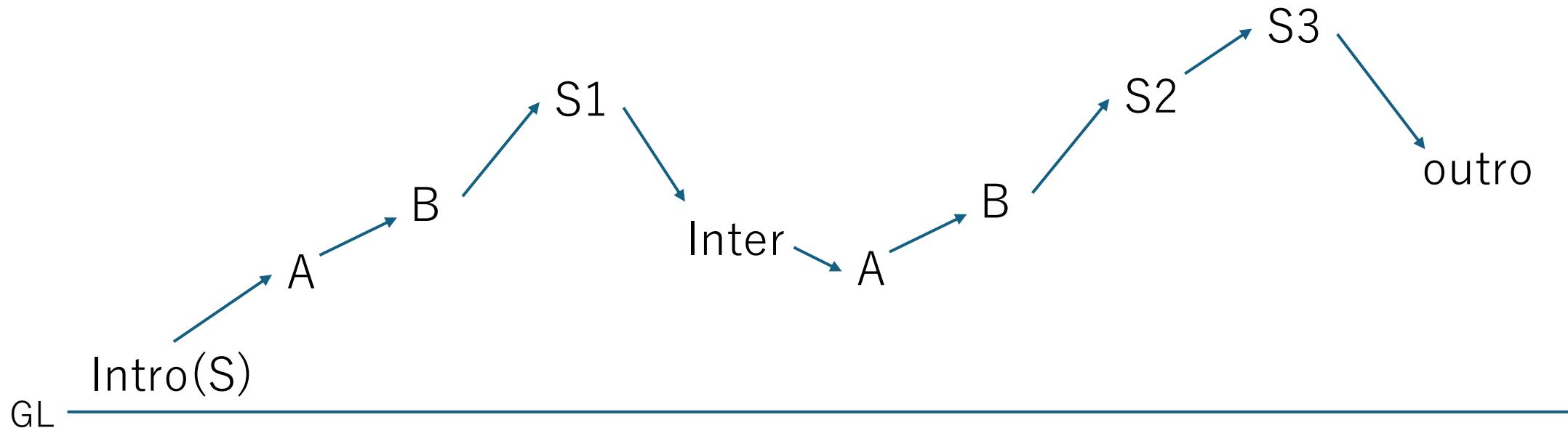
- この構造を図示すると以下のようになります。



ただし、テンションの上下に関しては、曲により変わることもあります。特に間奏やBメロの扱いは大きく差が出るところです。サビで盛り上がるという点は基本的には共通しています。（例外あり）終結部はラスサビでのテンションを維持したままということもあります。
(というかそっちの方がメジャー)

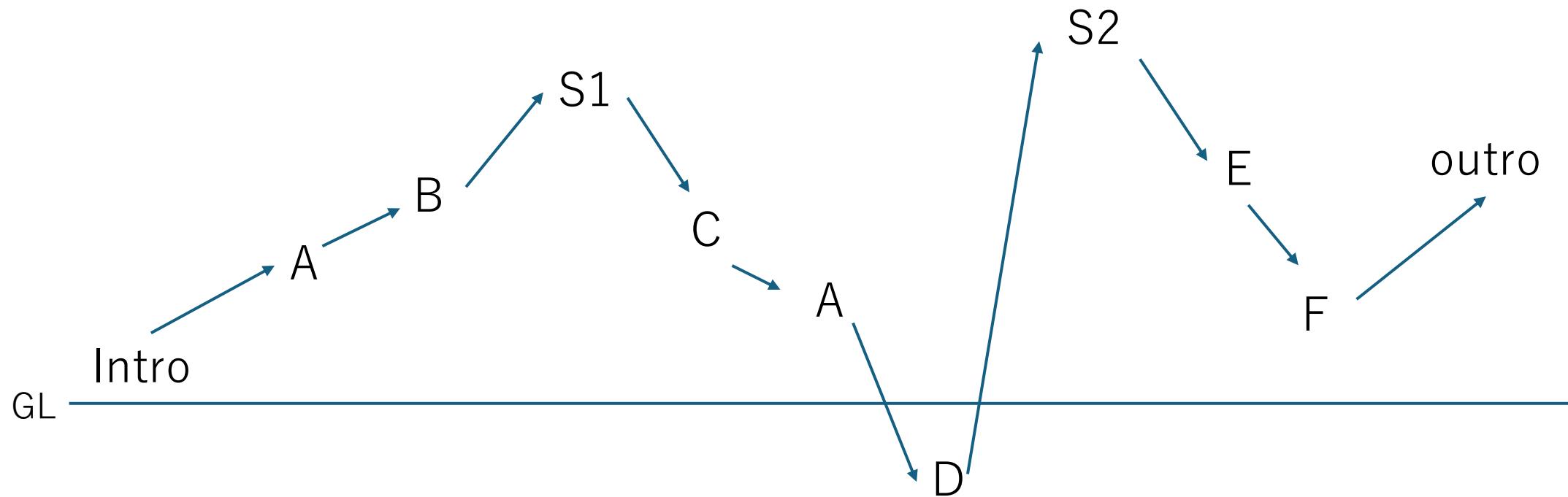
基礎的な構造の例

- 具体的な例を示しておきます。
以下に、「アルクアラウンド」（サカナクション）の構造を図示しました。



それなら……^^

- ・「緊張と緩和」という点だけを踏まえればよいとするならば、以下の構造は効果的と言えるでしょうか？



それなら……^^

- ・まあ効果的ではないでしょう。（相当な技量がなければ……）
- ・なぜ上手くいかないのでしょう？

→これは、人間が一度に処理できる情報の量を超えてしまっているからであると考えられます。（要素が多すぎる）

例えば、今から私が1分間で皆さんにガチの現代音楽についてアホほど語り始めたとしましょう。
恐らく全員が理解できないと思います。

適切な情報密度

- ・ 提示する情報には、適切な量というものがあります。
音楽においては時間軸というものがあるので、
「情報の密度」としたほうが適切でしょうか。
- ・ 音楽を提示する側から、ある程度「フレーム」のようなものを用意しておく必要があります。
また、どこを重点的に聴けばいいのか？というところもこちらで演出しておく必要があります。（理解を助けるため）
- ・ こういった要求に応えるものとして、
「繰り返し」という構造が多く用いられています。

ガチの余談

- Brian Ferneyhoughなどによる"New Complexity"(新しい複雑性)や Pierre Boulezなどによる"Total serialism"(総音列技法)などが下火になった理由に、複雑性が人間の認識限界を超えてしまい、作品ごとの差異が分からなくなってしまった、という点を挙げる者もいる。
- C.Debussyの"La mer"第2楽章は、かなり落ち着きがなく情報量が多いように感じるが、実際は非常に纖細な動機労作が施されており、そのため構造としての破綻が見られない。非常に稀有な例といえる。

序盤のまとめ

- つまり、音楽の構造を考える上では、

「緊張と緩和」

「適切な情報密度」

という2点を抑えておけば、大きな問題はありません。

やったね！作曲はかんたん！

ここからは
がチ思想タイム

そもそも、そもそもよ

- ・そもそも、「音楽」という媒体を用いる意味はどこにあるのか？

→音楽でやる必要のないことをやっても、しっくりこない

- ・「やりたいこと」を適切な方法でやることは非常に重要

→バランスを見誤ると、出オチ感のある曲になる。

(評価の微妙な現代音楽とかを聴くとわかると思います。)

そもそも、そもそもよ

- ・音楽で何かしらを表現するのであれば、
音楽の持つものを理解する必要があります。

→更地が考える音楽の特性は以下の 2 点です。

- 1) 方向性
- 2) 抽象性

どっちを向いてんだ(シャンティはオシャンティー)^^

- ・ 1) 方向性とは？

音楽とは時間と深くかかわる媒体です。

時間には方向性があり、途中で再生を止めたり巻き戻しをしない限りは、必ず一方向のみに進みます。

ある種、非常に暴力的に、強制的に鑑賞者を先へ先へと進ませることができる、という特徴を持ちます。

抽象性ってゆっくり言ってみて やだ^^

・ 2) 抽象性

音楽は他の媒体に比べて非常に抽象性が高い媒体です。

I.Stravinskyの発言には「音楽は音楽以外の何ものも表現しない」というものがあります。この言葉によく表れているように、音楽というものは基本的に具体的なものを表現することが苦手です。

音楽を縛り付けるもの

- ここで以下の譜例に示される音を聴いてください。

The musical score consists of two staves. The top staff is for '2 Flauti' and the bottom staff is for 'Fl.'. Both staves are in G major (one sharp) and common time (indicated by '8'). The first measure shows sixteenth-note patterns with dynamic markings 'plusingando' and 'Solo'. The second measure shows eighth-note patterns with a dynamic marking '()>'. The third measure shows sixteenth-note patterns with a dynamic marking 'p'. The fourth measure shows eighth-note patterns with a dynamic marking 'p lusingando'. The fifth measure shows sixteenth-note patterns.

この音楽が表現するものは一体何でしょうか？

音楽を縛り付けるもの

- ・先ほどの譜例は、B.Smetanaの連作交響詩『わが祖国』から第2曲「ブルタヴァ」の冒頭部分から引用したものです。
- ・この部分はブルタヴァ川の源流が湧き出すところを表現しているとされています。
→しかし、今の音だけでそれを理解できる人は本当にいるのでしょうか？
- ・音楽とは常に言葉に縛られることで具体性を得てきたと考えられます。

最近の私の音楽思想 1

- ・この2点から、私は「**抽象的物語**」というテーマで作曲を行うことが多いです。（最近は）

→「抽象的物語」というのは、なんとなく何かしらの物語があるなあくらいのふんわりした隙間の多い物語を表現するというものです。（音楽に対して最低限の言葉で緩い縛りを与えてうっすらとした物語を形作る）

一番わかりやすい例としては、『さよなら宇宙旅行』があります。あと、『悪夢』とかそのあたりもこれにあたります。

最近の私の音楽思想 1

- ・抽象的物語をやるには、聴き手への信頼が必要になります。

ある意味、歯抜けのあらすじだけ渡して、あとは全部自分で補完してくださいね～という状況になっています。

聴き手はたぶんこのくらい考えてくれるだろう！というポジティブな姿勢が必要となります。

(更地の場合は逆に、「どうせ真面目に言っても伝わらんしわかりにくくても変わらんだろう」というある種の信頼のなさからこれをやってる節もあります)

最近の私の音楽思想 2

- ・今までの話とは全く別の話として、
「聴き手に何かしら疑問を投げかける」というところも
大きなテーマとなっています。
- ・特にクラシック系の作品を書くときにこれは強く意識しています。

“Sonata No.1 for Solo Violin”と“Sonata No.2 for Solo Violin”あたりは、クラシック音楽において重要視されることの多い「ソナタ形式」という形式に対して、その形式の意味を問い合わせなおすということをテーマにしています。

最近の私の音楽思想 2

- “Sonata No.1 for Solo Violin”の構造を見てみましょう。

第1主題提示→（推移）→第2主題提示→展開

→第2主題再現→第1主題再現→終結

この曲では、おおよそスタンダードにソナタ形式を踏襲しつつ、全体を（やや大げさに）ドラマティックに仕上げるため、再現部に手を加えています。

最近の私の音楽思想 2

- この曲は全体を通して、「よく考えると不合理」というところが多くあります。
- ソナタ形式という西洋的ドラマツルギーのもっとも典型的な発露ともとれる形式に対して、まったく西洋的でない旋律を組み込んでいます。

Allegro ma non troppo.

A.Yamada (2003-)

The musical score consists of four staves of piano music. Staff 1 (measures 30-31) shows eighth-note patterns with dynamic markings *p*, *mf*, *p*, and *mf*. Staff 2 (measure 34) shows sixteenth-note patterns with dynamic markings *p*, *f*, *p*, and *cresc.*. Staff 3 (measure 38) shows eighth-note chords in 9/8 time with dynamic *sempre ff*. Staff 4 (measure 41) shows eighth-note patterns in 11/8 time with dynamic *mf* and *p*.

最近の私の音楽思想 2

- また、ヴァイオリンソロのための楽曲でありながら、
ヴァイオリンで演奏するにはだいぶ無理をしなくてはならない
楽節が多く存在します。

(しかもそのほとんどが、概形だけ見ると典型的なヴァイオリン音楽に
みられる楽節のように見える。)

Musical score excerpt showing measures 61 and 64. Measure 61 starts with a dynamic **f**. Measure 64 begins with a dynamic **mp** and a tempo marking **(Meno mosso.)**. The music consists of sixteenth-note patterns. Measure 64 includes dynamics **mf** and **allarg.** (allegro). Measure 65 follows, indicated by a dashed line.

Musical score excerpt showing measures 146, 149, and 152. Measure 146 starts with a dynamic **mp** and a crescendo marking **cresc.**. Measure 149 starts with a dynamic **(cresc.)**. Measure 152 starts with a dynamic **accel.** (accelerando) and a crescendo marking **(cresc.)**. The music consists of sixteenth-note patterns.

最近の私の音楽思想 2

- ・不合理でありながら、「ソナタ形式」というドラマ性の強い形式に当てはめてしまえば曲として成立してしまうという、ソナタ形式のもつ劇的な面を問い合わせなおす楽曲になっています。（多分）
- ・余談ですが、これらの不合理性という部分は、R.Venturiという建築家の『母の家』という建築に通ずるところがあります。

最近の私の音楽思想 2

- ・ “Sonata No.2 for Solo Violin” の構造についても触れておきます。

この楽曲は、ソナタと銘打っておきながら、
明確なソナタ形式とは大きくかけ離れた構造を持ちます。

非常に複雑な構造を持つため、ここでは深く解説しないでおきますが、
簡単に言うと、「3つの音の列を主題として、それを展開しながら、
展開により作られた音列を新たな主題として用いてさらに展開する」
というものです。（簡単ではない）

最近の私の音楽思想 2

- ・なぜこの構造を使用したのか？

→それは、「ソナタの本質とは？」という問い合わせ私の中にあったからです。

私は、ソナタの本質を「展開」だと思っています。

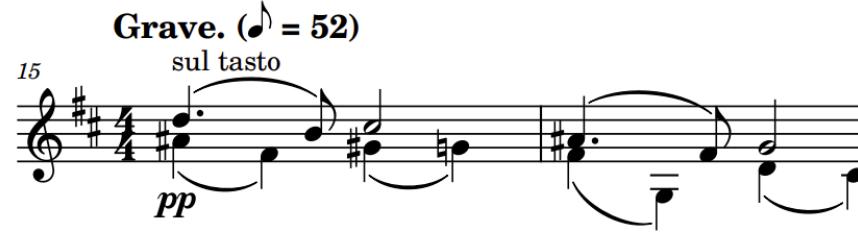
(ここで言う「展開」とは、主題を変化させていくこと。)

その展開という部分に強くフォーカスした音楽をつくることで、聴き手にソナタとはなんなのかという疑問を投げかけたかったです。

最近の私の音楽思想 2

- いちおう譜面を示しておきます。

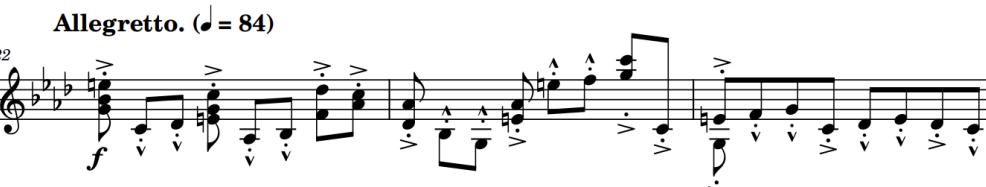
15 **Grave.** ($\text{♩} = 52$)
sul tasto
 pp



18 **un poco con moto.** ($\text{♩} = 84$)
ord.
 mp



—
22 **Allegretto.** ($\text{♩} = 84$)
 f



25
 p



37 **Allegretto con anima.** ($\text{♩} = 92$)
 p f p f



61 ff



64 ff



67



158 $other dynamics rasc.$ — 7



164 fff



最近の私の音楽思想 2

- ・感情的な面で言うと、主題をシンプルにしておくことで、「一生同じところから出れない」みたいなところを表現しています。
- ・かなり地獄のような曲です。初演が楽しみ♥

総括 (縦力ツ)

- ・「緊張と緩和」「適切な情報密度」をおさえておきましょう。
- ・更地の音楽は、「抽象的物語」「聴き手への問い合わせ」といったテーマを持っている。（ことが多い）

以上！！！！

ご清聴ありがとうございました